

Travel & Support

Action

旅のサポートは、
「安全」かつ「安心」が基本。



(上) 車イスで、お伊勢参り。
(下) 首里城の階段もゆっくりと。



日本全国のネットワークを使って——
着地サポート利用のメリットは!?

高齢になっても
障がいがあっても
「旅」をあきらめないで!

高齢になったら……、障がいがあったら……。またはそういう方々のお世話をしなければならぬ……、だから、旅には出られない、と思っていまいませんか。

高齢社会と言われるようになって以来、国内外を問わず、宿泊施設や交通機関、サービス提供者などの、高齢者や障がい者に対する

理解が高まりサービス体制も整いつつあります。が、まだまだ十分とはいえません。

12年前、私たちは障がいをする方々や高齢の方々に、障がいがあっても高齢になっても「旅」をあきらめないでほしいと、サポート活動を少しずつですが始めました。目標は広く一般の方々に、高齢者や障がい者の旅や外出に対する情報や、高齢者並びに障がい者の外出の機会を積極的に支援するための人的サポートを含め、誰もが外出や旅を楽しめるような情報を提供することです。また、サポートする人々を育成し、より多くの人たちが外出できるような体制を作ることです。

さらに、コミュニティや社会が、障がいのある方々をはじめとする、すべての助けを必要とする人々やグループを包括的に見ていこうとするWHOの考え方(CBID)^{世界保健機関}にのっとって、この活動を広げて行きたいと考えています。

活動内容は、先に述べたようにユニバーサルツーリズムの情報提供(旅行中に使用する車いすやベッドなどのご相談から、ツアーのご紹介などを含む)。高齢者や障がい者の旅のヘルプ&サポート。旅のヘルプ&サポートをする人たちの育成です。

旅(外出を含む)に関わることなら何でも、まずはご相談ください。

*CBID: Community-based Inclusive Development
地域に根ざしたインクルーシブ(誰も排除されない社会)開発



メリット-1

サポートする人の交通費、
宿泊費などが不要。
(サポートに関する経費が軽減)

メリット-2

地元で詳しい人の案内により、
旅を「安全・安心」に楽しめる。



海水浴も楽しめます。

《東京ユニバーサルツーリズムセンター》
(東京UTC)の活動

《東京UTC》は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、高齢者や障がいを持つ人、子ども連れなど、安心して旅を楽しんでもらうためのネットワークの構築や情報発信をすることを目的として、2015年に設立。

東京を訪れた支援を必要とする人たちが、旅や滞在を楽しむ環境を創り出す「ユニバーサルツーリズム」のネットワークの拠点となります。

都内の交通機関や宿泊など、様々な施設を利用する上での情報などを発信したり、実際の人的サポート(移動・食事・入浴・トイレなど)では、専門の支援サポーター(旅サポーター)のW紹介も行っています。

《東京UTC》は、東京を誰にでもやさしい観光都市として発展させていくことを目指して活動しています。



食事介助も、重要なサポート。

久保田 牧子: NPO 高齢者・障がい者の旅をサポートする会 & NPO 東京ユニバーサルツーリズムセンター・理事長

1945年東京生まれ。玉川大学を卒業後、婦人誌「婦人生活」、在宅介護誌「やさしい手」「かいこの学校」の編集を経て、高齢者や障害者がいきいき暮らすための「旅」をテーマに、「NPO 高齢者・障がい者の旅をサポートする会」を2007年に設立。2015年「NPO 東京ユニバーサルツーリズムセンター(東京UTC)」を設立、理事長を兼務。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向かって、「NPO 日本ユニバーサルツーリズム推進ネットワーク」とともに連動し、より専門的な情報サポート、旅のプロデュースを行っている。

HP: <http://www.tabisupport.org>